飯豊連峰山行報告書

C1　上村拓

○日程
2014 年 9 月 29 日～10 月 2 日
○参加者（敬称略 2 名）
M4 荒川　C1 上村
○行程
＜1 日目＞
飯豊山荘駐車場 05:24～桧山沢吊り橋 06:11～休場ノ峰 09:00～宝珠山 11:30～飯豊山 14:10～本山小屋 15:00
＜2 日目＞
本山小屋 09:15～御西小屋 10:40
＜3 日目＞
御西小屋 05:20～大日岳 6:15～御西小屋 07:30～梅花皮小屋 10:30～門内小屋 12:10～頼母木小屋 14:10
＜4 日目＞
頼母木小屋 05:30～杁差岳 07:00～頼母木小屋 09:00～地神北峰 10:20～飯豊山荘 12:50

9 月 27 日、28 日と白馬岳の山行を終えて後、荒川先輩の運転で長野から飯豊山荘まで車を飛ばし 4 時間半。仮眠をとるもやや疲れの残る中、多少迷ったがやはり天気の良い今日登りたいということで大嵓尾根に臨む。飯豊山に登るルートはどれもかなりタフなものだが（如何せん登り口の標高がどこも低いのである）、大嵓尾根はその中でも一際難儀いコースである。

尾根へは飯豊山荘駐車場から林道を歩くこと 50 分、最近復旧した桧山沢吊り橋を渡って取り付く。この吊り橋のために荒川先輩は 3 年もこの山行計画の実施を待たされたそうである。今年復旧して本当に良かった。そういうわけで新しい吊り橋、当然揺れはするもののやはり安定感がある。

飯豊山は所謂お椀型の山で、大嵓に限らずどの尾根も登り始めが一番の急登である。平均斜度 37 度（目測）、最大斜度 61 度（目測）というううんざりするような登りが登り始めから延々続く。今までに登った他の山ではこういう急坂はせいぜい 10m, 20m 位のものが単発で来るか九十九折になっているかくらいのものだったのだが、ここは直登で終わりが見えない。血の気が引く思いだったが登り始めるとすぐに顔が火照り薄紅の差す様子。心と体はしばしば相反するものよのぉ、と思う。それでも、急登なだけにぐいぐいと高度を上げてゆくのは気持ちの良いものである。2,30 分登ると登り口は遥か下。勾配が緩むところがあるとホッとする。軽い岩場なども抜けつつ、2 ピッチと少しで休場の峰に到着。天気に恵まれ稜線がきれいに見渡せる。実は我々は休場の峰を一つ先のピークと勘違いしていて（休場の峰には標識が立っていなかった）、それとは知らず休憩していた。休場の峰はどうあっても登山客を休ませるのか。休場の峰には岩場があり、そこに登って遊んでいたら、足の筋肉痛も恢復したようである。なぜだろう。ともあれ、宝珠山に向かって出発である。ここまでは辛い急登。ここからは辛いアップダウンである。千本峰を始めとして 30~100m 登っては下り、下っては登り。しかもポツリポツリと通行の難しい場所が現れる。なかなかイヤラシイ奴ではないか、大嵓尾根。しかし要所要所で美しい景色も覗かせてくれるのである。丁度飯豊では紅葉の盛り。眼福、眼福。なかなかニクイ奴ではないか、大嵓尾根。そんな大嵓尾根を楽しみつつ、ようやく宝珠山に着く。ここにも標識がなく確証が持てないのだが。振り返れば西側斜面は美しい朱。越えてきた小ピークたちは意外と岩岩している。行く手を見ればようやく姿を見せた飯豊山、稜線が烏帽子、梅花皮、北股とはるかに伸びてゆく。ここまでコースタイムよりはるかに速く前日、前々日に山行を一つ済ませてきたとは思えぬペース。日が落ちてしまう心配もなくなった今、ひとつのんびり行こうじゃないかと、たらたら山頂を目指す。また少し上り下りを繰り返してやっとこさ最後の急登。ここはちゃんと道が九十九折になってくれている。見た目ほど苦なく登り切り、山頂は目の前。ここで怪しいガスの影。山頂までは持ってほしいと願いつつ御前坂を登るとようやく山頂である。すぐにガスが追いつく。あ～あ。本山小屋のほうはきれいに見えるのだが、登ってきた

大嵓のほうは真っ白。それでも 30 分ほど粘ると少し姿を見せた。写真撮影を済ませ、小屋へ。15 分で到着。先客は二人。荷物をおろし、一服。それから水場へ。そこは稜線上、少し遠い。水はチョロチョロ。時間をかけ水筒をいっぱいにする。戻ると殊勝に日が沈んで行っている。夕飯の前に日没を楽しもうと風の冷たさをおして外で待つ。飯豊山の脇へと日は雄大に沈んでいった。後、夕食。親子丼、味噌汁、サバ缶を平らげる。翌日は台風の影響が懸念される。天気がもってくれることを願いつつ床に就く。

桧山沢吊り橋。建て替えられて間もなく、しっかりしている。

写真では伝わりにくいが、相当な急登。

休場の峰より望む宝珠山までの稜線。凸凹と続いているのがわかる。

紅葉①　道は崩れていて危ない。

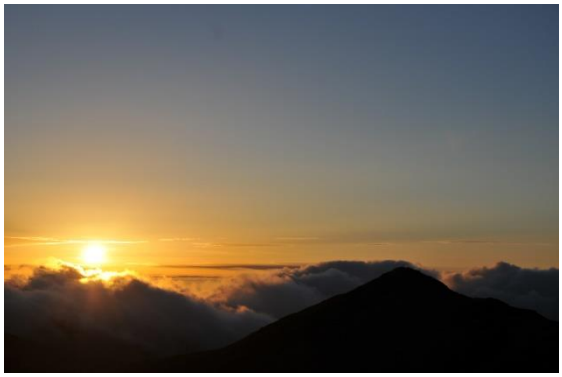
紅葉②　宝珠山の西側斜面。

御前坂。山頂は目前。

山頂にて。ガスが出てきた。

本山小屋。

水場。



夕陽と飯豊山。

二日目、夜通し吹いていた風は衰えを知らず、周りは一面のガス。やはり台風の魔の手、逃るるを得ず。取りあえず朝食のシリアルをいただいて、しばらく様子を見ることに。すると９時ごろ若干の晴れ間が。この隙にと御西小屋まで移動。稜線上なので険しくない道。しかし何分風が強い。時折体が持って行かれそうになる。何とか御西小屋に辿り着く。今日はこの先には進まず、天気が持ちそうなら大日岳の往復だけしようということに。然るに、天気は崩れてしまった。風は依然強く、小雨もぱらつく。ということで、停滞決定。暇つぶしを何も持ってきていないことを嘆く。荒川先輩はクエスチョン・バンクに取り組まれていた。私は軽く筋トレしたり地図を見てバリエーションルートに思いをはせたり。ゆっくりと時間は過ぎてゆき、夕飯にパスタを食し、明日こそはと祈りつつ就寝。

御西岳山頂。標識を兼ねる斬新さ。

御西小屋。かわいい形。

三日目。4 時半に起床。風は強いしガスも出ているが、昨日よりは落ち着いた様子。まあ行けるな、ということで、朝食のお茶漬けをかきこみ、大日岳に向かう。30 分ほど行ったところでガスが晴れてくる。一瞬の晴れ間。天候が徐々に回復してきているのだろうか。池など通り過ぎつつ、最後の急登をあがって、山頂に到着。風が強い。寒い。山頂でのんびりできるような様子ではないので、風の弱い、尾根の陰で休む。ガスはそれなりに晴れていた。御西から大日への稜線や、今日向かう御西から烏帽子、北股、梅花皮への稜線が望める。ガスがきれいに晴れるまで粘ることも考えたが、なかなか晴れず、時間もそうないので御西小屋まで戻る。途中で再びガスの中へ。御西周辺は出やすいのだろう。早朝の出発から 2 時間と少し、コースタイムよりだいぶ早く小屋に戻ってきた。このペースなら頼母木小屋まで行けるな、ということで頼母木目指して出発。背後に大日岳をたたえつつ、烏帽子岳を目指す。ここからひたすら稜線歩き。天気がよいと気持ちいいのだが、風が強いと吹きさらし。稜線の陰になって風の弱まる道が殆どだったのだが。池を三つほど過ぎ、くさいぐら分岐を越えるとすぐに烏帽子岳である。くさいぐら尾根も登りにいい尾根だと思うのだが、コースに指定されていない。烏帽子岳を過ぎるとすぐに梅花皮岳、そして梅花皮小屋である。実はこの道中風で銀マットが飛ばされてしまった。もっとしっかり括り付けていなければならなかった。反省。石転び沢からの道は梅花皮小屋の目の前。梅花皮小屋もとてもきれいな小屋である。トイレが小屋の中にあるのも便利。この先の水場があまり期待できないので、ここで水を補給。かなり豊富に水が出ている水場。30 分ほど休憩し、北股、門内へ。北股までの登りが本日のハイライトというか一番きついところ。と思っていたが 20 分であっさり到着。更に進んで門内岳、そして門内小屋。稜線歩きもガスっているとなかなか単調である。門内小屋で 20 分ほど休む。丁度お昼。頼母木はもう近い。余裕ある日程。ゆとりだなぁ。さて、次は地神山。ここへ向かう途中でようやく、ようやく天気が回復した。待てば海路のなんとやらか。いや、山路だな。周りは鮮やかな紅葉。大変心地よい。気分よく地神山へ到着。そして頼母木へ。14 時過ぎに頼母木小屋へ着く。杁差のほうはガスっているが、おおむね晴れ。早く付いたのでしばらくのんびりする。水場は期待していなかったのだが、裏腹、豊富に出ていた。水場には石鹸も置いてあり、足洗い場まである。小屋内には毛布もたくさん。心配りの行き届いた小屋である。しかも我々のほかに宿泊客はなし。夕陽を眺め、夕飯に牛丼をいただいて、翌日の杁差岳を楽しみにしつつ床に就く。

大日岳山頂。風強し。

振りさけ見れば大日岳。

梅花皮小屋。

梅花皮小屋の水場。

地神手前でようやく晴れ間。

歩いてきた稜線。

頼母木小屋。いい小屋。

紅葉&夕陽で真っ赤。

最終日。一日停滞があったものの、日程の消化は出来そうである。天気は、快晴とはならぬものの、杁差岳に雲はかかっていない。眺望はよさそうである。朝食にシリアルをいただき、5 時半出発。杁差岳周辺で熊が出ているという情報を祖母からもらっていたので（祖母は杁差岳のある関川村に住んでいるのだ）熊鈴をつけ気を付けつつ歩いていく。25 分ほどで大石山に着く。道中朝露で濡れてしまった。雨具を着ようかと思ったが面倒なので着ない。雲間から差す光芒が美しい。そこから 1 時間ほどで杁差岳である。山頂に標識はなく三角点と祠があるのみ。静かでよい山頂。故郷の山なので感慨も一入。余談。私の祖父はこの杁差岳のあたりで熊を撃っていた。祖父はかなり山に登る人だったそうだ。杁差に祖父の面影を見た気がしてじいんと心を打つものがあった、ような。余談お終い。山頂とそこからの眺めを堪能した後、杁差小屋に少し寄る。外見は御西と似ている。勿論中に人はいない。飯豊連峰は福島、山形、新潟と三県にまたがっているのだが、それぞれの県の管轄の小屋で少しずつ注意書きなど変化があるのが面白い。15 分ほどだらだらした後、頼母木までの戻り道、熊さんに会うこともなく無事小屋へ着く。時に 9 時。休憩を除いて三時間。予想通りコースタイムの 5 分の 3。このままいけば予定より早く下山できそうである。身支度を整え、9 時半に下山開始。頼母木山を越え、地神北峰より丸森尾根に取り付く。丁度紅葉の真っ只中、両側に色づいた木の中を抜けてゆく。この尾根も見どころがあるものである。

頼母木小屋より望む机差岳。

光芒と山々のシルエットが綺麗ですよね。

机差岳山頂。

机差岳避難小屋。Cf. 御西小屋。

丸森尾根。